



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

プレスリリース

2023年6月19日

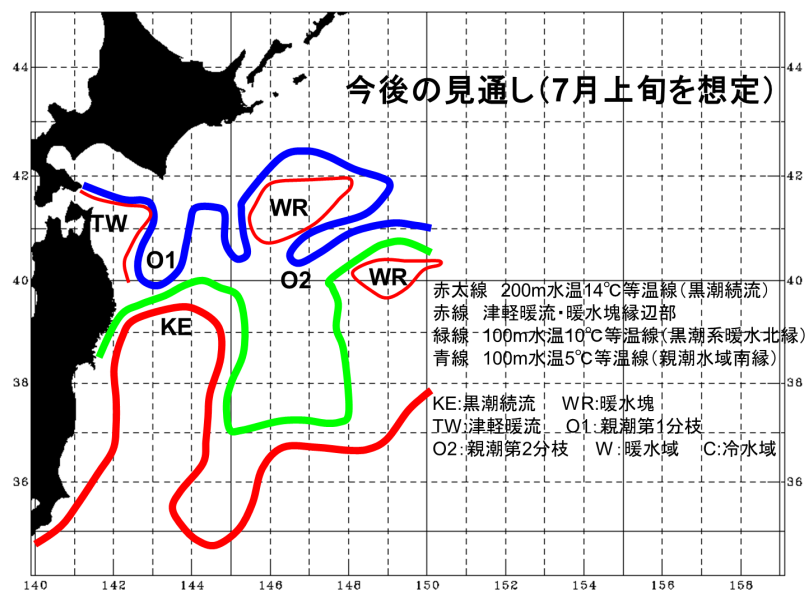
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2023年度 第2回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2023年6月下旬～2023年7月上旬)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。
- ・ 下北半島沖の暖水塊は停滞し、三陸沖の暖水塊は西進する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 上原

海洋環境部（釧路） 清水、東屋

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

2023年第2回度東北海区海況予報

《今後の見通し（2023年6月下旬～2023年7月上旬）》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。下北半島沖の暖水塊は停滞し、三陸沖の暖水塊は西進する。

《海況の経過（2023年4月～2023年5月下旬）の特徴》

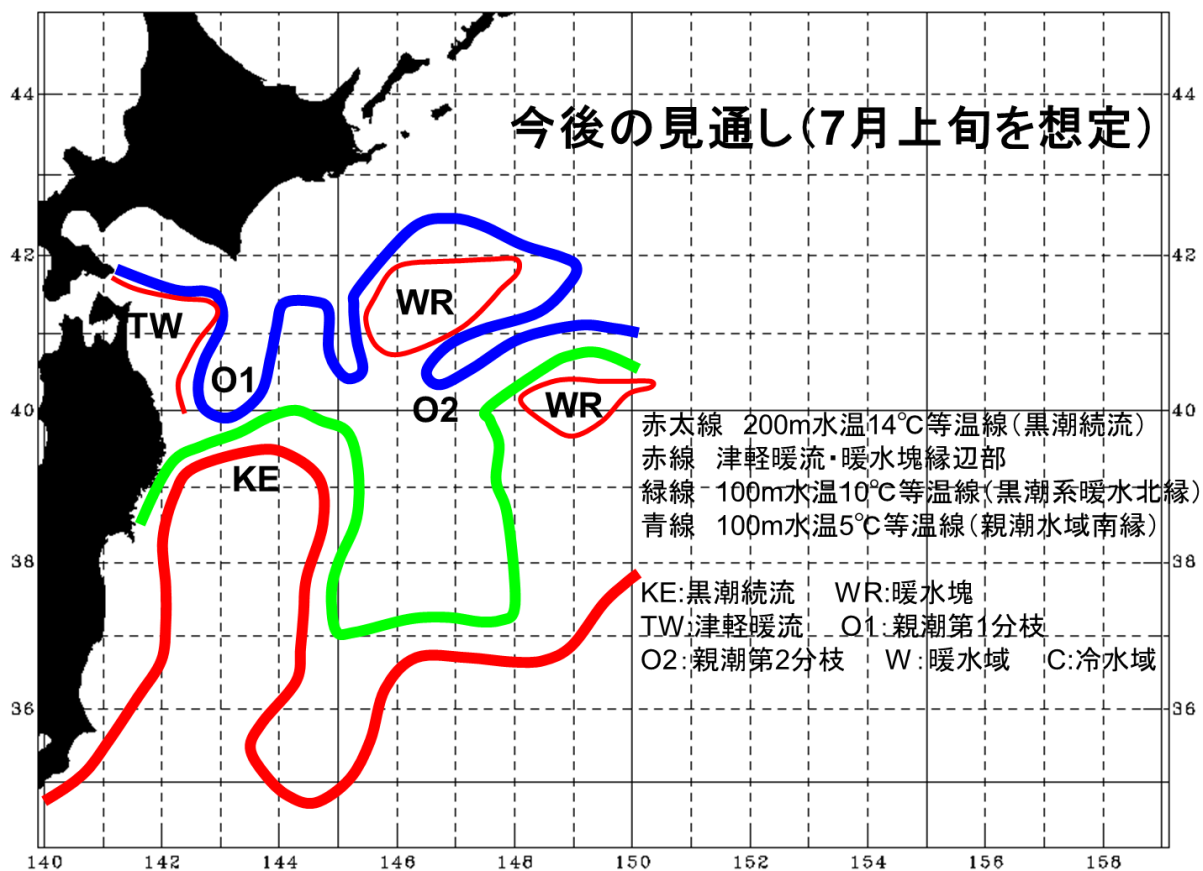
近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移した。下北半島沖、三陸沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2023年6月上旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しは平年並みである。暖水塊が下北半島沖、三陸沖にある。

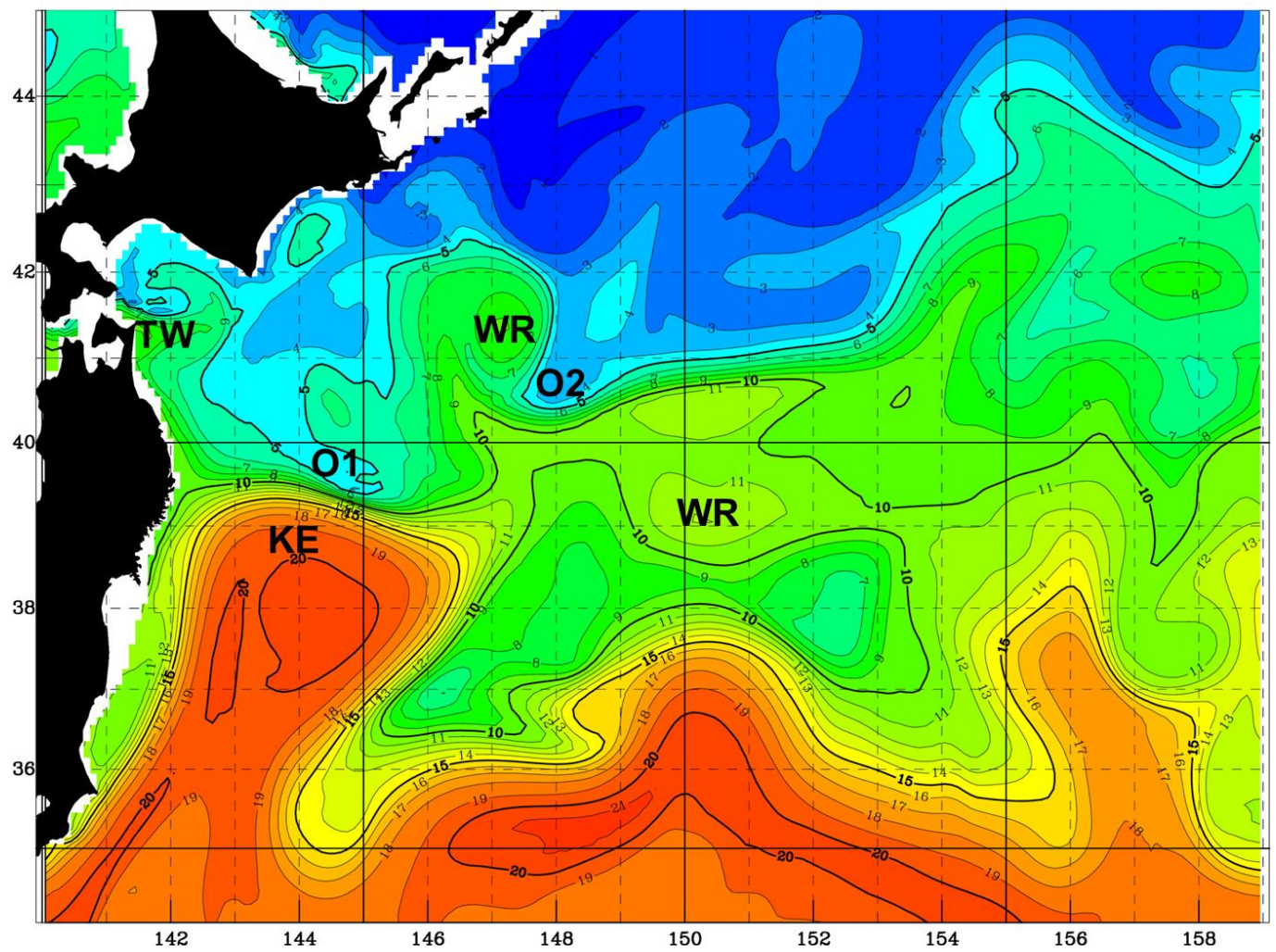
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを用いた。FRA-ROMSⅡは、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

7月上旬予測水温分布図



6月上旬現況水温分布図（100m深）

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2023/0601 - 2023/0610



図中の記号はそれぞれ01が親潮第1分枝、02が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊を表している。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
岩手県水産技術センター	
宮城県水産技術総合センター	
福島県水産海洋研究センター	
茨城県水産試験場	